

**TAJIMI
CUSTOM
TILES**

TAJIMI CUSTOM TILES at Milan Design Week 2022

Installations by Ronan & Erwan Bouroullec, Max Lamb and Kwangho Lee

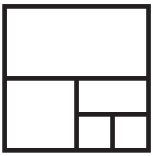
Dates: 7 - 12 June 2022

Venue: Gallery Assab One, Via Privata Assab 1, Milano (MM2 Cimiano)



tajimicustomtiles.jp

@tajimicustomtiles



TAJIMI
CUSTOM
TILES

TAJIMI CUSTOM TILES は、日本の一大タイル産地の多治見で 2020 年に立ち上がった、フルカスタムでタイルの製作を手がける新しいブランドです。2020 年に東京でブランドデビューをした TAJIMI CUSTOM TILES。

世界的に活躍するデザイナー、マックス・ラム、イ・カンホに加え、新たにロナン&エルワン・ブルレックを迎え、このたび初めて日本を飛び出し、ミラノデザインウィークにてインスタレーションを開催。世界のみなさんへブランドのお披露目をいたします。

1300 年にわたり続く焼き物の伝統と歴史の中で、多治見には数々の技が生まれ継承され、現在の多治見の最大の特徴である多様性のあるものづくりを実現しています。

そしてこの多様性から TAJIMI CUSTOM TILES が導き出したのが「ビスポーク・タイル」という発想です。丁寧な対話、最高の素材、最高の技術で仕立てる洋服づくりにならって、TAJIMI CUSTOM TILES はきめ細やかなコミュニケーションと多治見の技を集結して、世界中の建築家やデザイナーの方に向け、オリジナルのサイズ、形、色、質感のフルカスタムタイルを制作しています。

ミラノデザインウィークでは、クリエイティブディレクターのダヴィッド・グレットリのキュレーションにより、文化拠点として盛り上がりを見せつつある地域の元印刷工場だったギャラリー Assab One を会場にインスタレーションを行います。多治見のタイル製造の技術にデザイナーの発想と想像力が交わり、既存の枠を超えたタイルの表現の可能性を見出します。

どうぞご期待ください。

Tajimi Custom Tiles at Milan Design Week 2022

Installations by Ronan & Erwan Bouroullec, Max Lamb and Kwangho Lee

会期：2022 年 6 月 7 日（火） - 12 日（日） 10:00 - 19:00

会場：Gallery Assab One, Via Privata Assab 1, Milano (MM2 Cimiano)

プレスプレビュー：6 月 6 日（月） 15:00 - 18:00

パーティー：6 月 9 日（木） 18:00 - 21:00



[works]

Ronan & Erwan Bouroullec (タイトル未定)



多治見でタイルの製造に用いられる押出成形という技術を用いた、ベースのようなオブジェのシリーズ。円筒形の本体にオブジェを取り付けることで、幾何学的な形、釉薬の色の構成を作り上げます。日本らしい調和のとれた深い釉薬の色味は、日本の陶磁器の美しさへの賛辞です。同じ押出成形技術で作られた大きなタイル張りのポディウムを用いて、インスタレーションを完成させます。

「多治見とは、いわば様々なフレーバーが溢れ出るお菓子屋さんのようなもの。黄色、茶色、ピンク...。それは花火のようでもあり、歓喜とともに爆発する。それを使って遊ぶ楽しみは言葉にできないほどだ。」

ーロナン&エルワン・ブルレック

WORKING TILE by Max Lamb



多様な形状をした立体的な3Dのタイルを、パズルのように組み合わせることで生まれるチェア、ローテーブル、ベンチ、フラワーベース、パーティションといった、さまざまなバリエーションのアイテム。多治見の独特な深い奥行きのある色味を現代に蘇らせようと、特殊な釉薬を使用。ボリュームのある立体的な形は、鋳込成形により実現しています。

TIDE by Kwangho Lee



押出成形技術に着目。異なる長さの成形を可能にするループをかたどったモジュールをデザインすることにより、多様な機能を提案。縦横どちらにも重ねることができ、組み合わせ次第でパーティションやベンチなどさまざまな展開が可能です。初めは非常に柔らかく、製造の過程で次第に固さを増していく土の素性をデザインで表現



[profile]



photo: Alexandte Tabaste

Ronan and Erwan Bouroullec / ロナン&エルワン・ブルレック

フランスのデザイナー、ロナンとエルワン・ブルレックの兄弟は、ブルターニュのカンペールでそれぞれ1971年と1976年に生まれ、1999年より協働している。インダストリアル・デザインから工芸作品まで、大量生産品から研究活動、そしてオブジェから公共空間まで、彼らの創造活動は様々な表現領域をカバーしながら、少しずつ我々の生活に浸透してきた。彼らのキャリアは国際的な企業や、ヨーロッパから日本に至るあらゆる地域で代々受け継がれてきた技術を持つ職人たちとのコラボレーションによっても特徴づけられる。様々な研究活動により世界の名立たる博物館との協働も実現している。

www.bouroullec.com

**Max Lamb / マックス・ラム**

1980年イギリス生まれ。ノーサンブリア大学で立体デザインを専攻後、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートに進学、プロダクトデザインを学ぶ。2008年独立。デザイナーとして活躍する一方、自らの手で数々のプロダクトを作り上げている。Design Museum、Gallery FUMI（ともにロンドン）、The Johnson Trading Gallery（ニューヨーク）、the Wolfsonian Museum（マイアミ）、the Melbourne（オーストラリア）など、各地の美術館、ギャラリーで個展を開催。母校のロイヤル・カレッジ・オブ・アートで教鞭を執るかたわら、世界各国の企業とのコラボレーションを行う。

maxlamb.org

**Kwangho Lee / イ・カンホ**

1981年韓国生まれ。金属工芸とデザインを学びソウルにデザインスタジオを設立。幼少期から自らの手でものを作っていた体験が、彼のクリエイティブな思想や作風の原点とも言える。何気ない景色に潜むかすかな事象の発見、再検証、再解釈を繰り返しながら、素材の特性や接合方法などを見極め、新しい可能性を持つ日常のデザインを見出す。2009年Design Miami/Basel審査員特別賞、2011年韓国政府文化部Artist of the Year、2013年Yaol/韓国文化遺産協会Young Craftsman of the Yearなど受賞。世界各国での個展や、グループ展、国際展などにも参加。作品はモントリオール美術館、サンフランシスコ近代美術館のパーマネントコレクション入りを果たしている。

www.kwangholee.com



長い歴史と伝統に根付いた、 多様性のあるものづくり

岐阜県南部に広がる多治見市。良質の粘土鉱物を大量に含む豊かな土壌を有するこの一帯では、およそ1300年前に焼き物文化がはじまりました。その長い歴史のなかで日本を代表する陶磁器、美濃焼が誕生したことは、多治見周辺域のものづくりの可能性を大きく引き伸ばしていきます。こうした背景のもとで20世紀初頭に始まったのが「タイルづくり」でした。多治見では現在でもタイル製造が盛んに行われ、その総合生産量は全国1位。モザイクタイルに至っては国産の9割をこのエリアが占めています。しかし、多治見タイルの特徴は、何もその圧倒的な生産力だけではありません。基材のみならず、素材、成形、釉薬にいたるまで、さまざまな形態、特性のメーカーが多角的に多治見のものづくりを支えているのです。さらに、ほかのエリアではほとんど見られなくなった日本の伝統的な焼成技術、変化に飛んだ釉薬表現、それを支える設備や生産方法が残っているのも特徴と言えます。

バラエティ豊富な製造手法で生 み出される多治見のタイル

釉薬の種類や焼成方法によって、バラエティに富んだ製造手法が存在するのが多治見タイルの特徴です。手作りのような風合い、温もりと深みを感じさせる色みと質感が特徴的な多治見タイルは、まさに日本の美の象徴とも言えるでしょう。タイルの仕上がりに影響を及ぼすのが、焼成のプロセスです。通常、量産タイルは均一で、安定した仕上がりのローラーハースキルンで焼成されますが、多治見ではトンネル窯やシャトル窯を使用しま

す。内部温度を変動させながら20時間以上かけて焼成する特性が、タイルに独自で生き生きとした表情を与えるのです。それに加え、酸化焼成とは対照的な還元焼成を特殊な釉薬と組み合わせることで、日本の伝統的な焼き物（陶芸）にも似た特徴的な風合いと色みを実現することができます。

多治見にしかできないことを、 世界に

TAJIMI CUSTOM TILESは、ダヴィッド・グレットリのクリエイティブディレクションのもと、株式会社エクシズが立ち上げたブランド。株式会社エクシズは、商社として事業展開しつつオリジナルタイルの商品開発も行ってきた中で、独自のラボ施設で試作品のプロトタイプの開発と見本焼きができる異色の企業です。自社のラボと地元メーカーのネットワークとを組み合わせることで、短い納期、安定した供給、高い品質を備えた製造環境を構築しています。TAJIMI CUSTOM TILESのほか、日本古来の伝統的なタイル製造法の復活や、環境保全のことを考えたりリサイクルタイルの生産などにも積極的に取り組んでいます。



David Glaetli (ダヴィッド・グレットリ)
／クリエイティブ・ディレクター

1977年生まれ、スイス・チューリッヒ出身。アート、マスコミュニケーションと日本語を学び、イタリア・ミラノとスイス・ローザンヌのECALでインダストリアルデザインを学ぶ。チューリッヒでプロダクトやインテリアデザインのプロジェクトに従事後、2008年に大阪の柳原照弘主催のデザインスタジオに参加。2013年、京都に拠点を移しGlaetli Design Directionを設立。2021年にチューリッヒへ移りStudio David Glaetliをオープン。東京との2拠点で活動。クリエイティブディレクション、キュレーションブランディング、コンサルティング、デザインマネージメントを専門に手がける。多摩美術大学非常勤講師。主なクライアントにカリモクニュースタンドとSUMIDA CONTEMPORARY、TAJIMI CUSTOM TILES、MINO SOILなど。www.davidglaetli.jp

株式会社エクシズ／運営

1994年、岐阜県多治見市に創業した総合タイルメーカー。「母なる大地に感謝をこめて。」をモットーに、天然素材と職人の技にこだわり、オーダーメイドのタイル制作や、タイルを中心とした建材の輸出入を行なっている。自社内に多彩なタイプのタイルサンプルを製造できるラボを併設すると同時に、多治見一帯の複数のタイルメーカーと協働し、安定した生産環境を保持。また、リサイクルタイルの生産の仕組みを開発するなど、環境の持続可能性を高めるなどの取り組みも積極的に行なっている。

www.x-s.jp

PRESS CONTACT

このニュースに関するご質問、取材や掲載のご希望がございましたら、プレス担当までお問い合わせください。

竹形尚子（デイリープレス）

Tel. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org